

経営比較分析表（令和4年度決算）

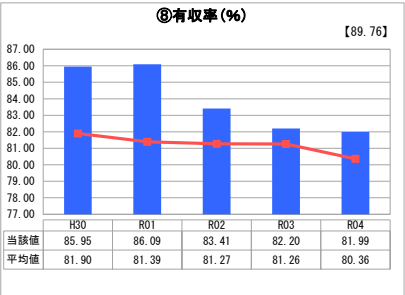
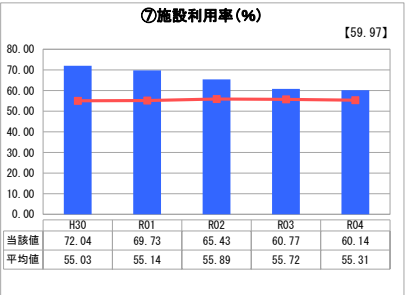
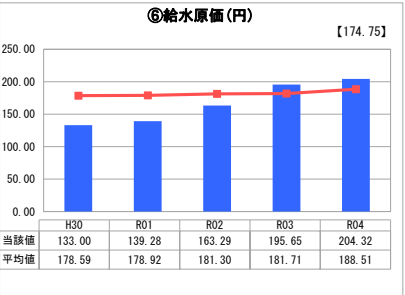
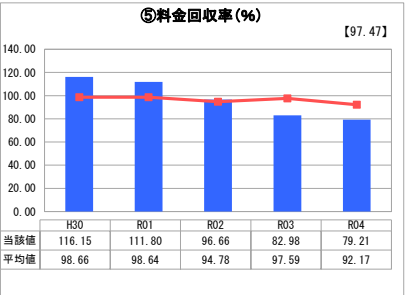
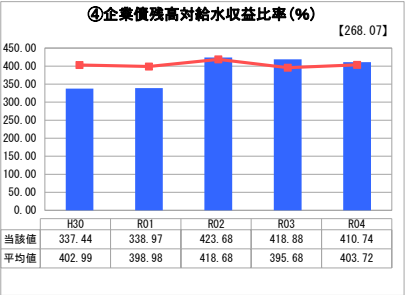
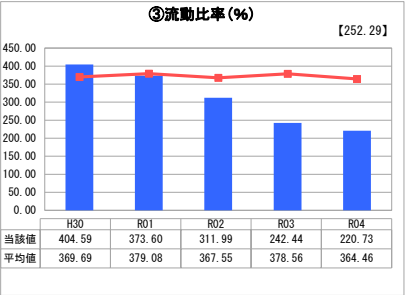
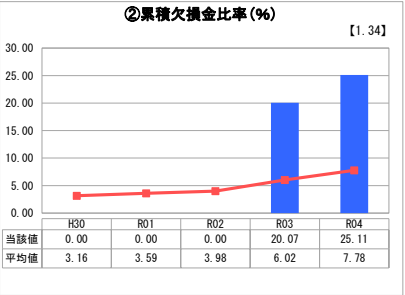
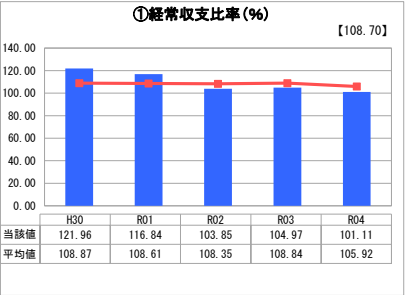
大分県 杵築市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	65.02	81.74	3,710	

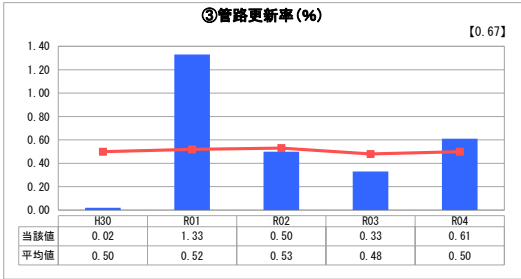
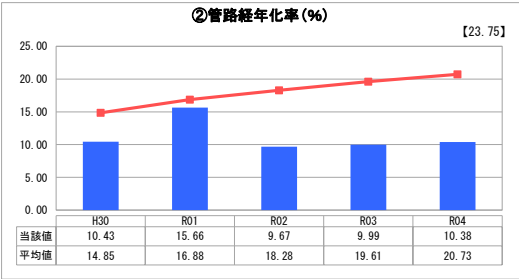
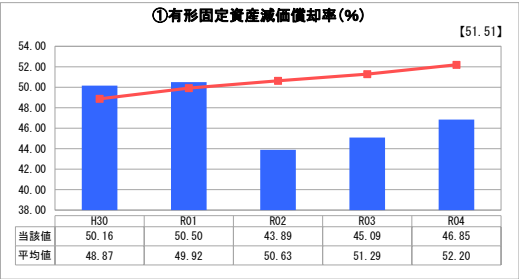
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,295	280.08	97.45
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
22,113	88.31	250.40

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①『経常収支比率』…経常費用が経常収益でどの程度補われているかを示す指標。100%を上回っており、この指標においては、健全な経営状況にあるといえますが、R02に全簡易水道事業を統合したことにより費用が大きく膨らんだことから、経営改善を図っていく必要があります。

②『累積欠損金』…浄水場整備事業に係る特別損失により大幅に増加しています。また当該特別損失がなくともR02に簡易水道事業を統合したことで厳しい経営状況にあります。今後は経営の健全化のために、定期的に料金水準の評価と必要に応じて見直しを行います。

③『流動比率』…流動負債に対する流動資産の割合で、短期債務に対する支払能力を表す指標。100%を上回っており良好ですが、R02に全簡易水道事業の統合により負債が膨らんでいます。

④『企業債残高対給水収益比率』…給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。類似団体平均値より上回っており、今後は老朽管の更新や浄水場更新事業により大幅な増加が見込まれます。

⑤『料金回収率』…給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標。100%を下回っており、必要な経費を給水収益で賄えていないことから、R04に料金改定を行いR05から適用しています。

⑥『給水原価』…類似団体平均値及び全国平均と比べて高いのは、R02に全簡易水道事業を統合したことにより、費用がかさんだためです。今後は一層の費用削減を図らなければなりません。

⑦『施設利用率』…配水能力に対する配水量の割合で、施設の利用状況を判断する指標。高い水準で推移しており、良好であるといえます。

⑧『有収率』…施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標。類似団体平均値に比べて高い水準で推移していますが、全国平均を下回っており、引き続き上昇に向けた努力が求められています。

2. 老朽化の状況について

①『有形固定資産減価償却率』…有形固定資産のうち、償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標。H30以降、簡易水道事業の統合により、大きく償却率が低下しており、R02の全簡易水道事業の統合により、全国平均を大幅に下回っています。ただし、配管等の老朽化は進行していることから、今後計画的な更新が必要です。

②『管路経年化率』…法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標。全国平均を下回っていますが、今後老朽管の計画的な更新が求められています。

③『管路更新率』…当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標。簡易水道事業の統合に伴い、管路延長が大幅に伸びた一方、更新のペースが比例して早まっていないことから、総合的に管路更新率が低下しています。

全体総括

現時点では、経営の健全性、施設の効率性は概ね確保されているといえます。しかしながら、南海トラフ大地震等の災害が想定される中、老朽化した浄水場の更新や法定耐用年数を超えた配管の布設替を如何に行うかが喫緊の課題となっています。今後は、給水人口の減少による給水収益の低下等も考慮しながら、必要な料金収入を確保するため、定期的に料金水準の評価と必要に応じた見直しを行うとともに、アセットマネジメントを反映した経営戦略に基づき、健全な経営に努めます。